

たかつき DAYS

知る 広がる 好きになる

[広報たかつき]
令和4年 No.1406

1

ま
ち
は
ミ
ュ
ー
ジ
ア
ム

10 ママパパ震災体験談

17 新型コロナウイルス
感染症関連

42 全国学力・学習状況調査

さすが歴史タウン！まちを歩けば古代にあたる！？

はにわ
at 上土室北公園周辺



ハニワ工場公園に近いエリアにある喜怒哀楽の表情豊かなはにわたち。公園へつながる小道の入口にも



園内には弥生時代や安満遺跡の出土品にちなんだオブジェが点在。南エントランスには祭祀用の黒と赤の模様の壺や農具のモニュメント、他の入口にも同様の壺が、それぞれ違う形の土器とセットで設置されている。メインエントランスからの環濠入口にある鳥がついた門柱の前の壺はかなり巨大

銅鐸

at けやき通り&高槻城公園周辺



さりげなく「古代」を主張する銅鐸をモチーフにしたポール(中)。公園入口のポールや、付近の街路灯の下部もどこか似ている？

弥生

at 安満遺跡公園



園内には弥生時代や安満遺跡の出土品にちなんだオブジェが点在。南エントランスには祭祀用の黒と赤の模様の壺や農具のモニュメント、他の入口にも同様の壺が、それぞれ違う形の土器とセットで設置されている。メインエントランスからの環濠入口にある鳥がついた門柱の前の壺はかなり巨大

高槻現代劇場に誘う演奏家たちの野外音楽会



ホルンやチェロ、アコーディオンなどさまざまな楽器を手にした音楽家たちと、演奏を楽しむ観客のオブジェ群。演奏会が行われる高槻現代劇場の近くで芸術ムードを盛り上げている？

高槻城公園～槻の木高校前にたたずむ動物オブジェ



公園の西側から高校の前、野見町あたりまでの間の道沿いに、等間隔に並んでいる。リスや鳥、うさぎなどで、表情やデザインがそれぞれ違っているのがおもしろい

道路脇・公園
×
パブリックアート

素通りしてない？
まちなかのゆるかわオブジェたち



上／高槻城北郵便局から国道171号の高槻警察署前交差点には楽器演奏者らしきオブジェが 下／けやき通りのチェーンボールは色もカタチもまさに銅鐸！

いつも何気なく通り過ぎていた高槻のまち。でもよく見れば、変わったカタチをしたものがさりげなく景色に溶け込んでいる。公共空間に置かれたアートをパブリックアートというけれど、「なんだかかわいい」「おもしろい」と思えば、なんでもアートに見えてくるはず。お出かけついでにまちなかを探検してみてもいいかも。



Instagram高槻市公式アカウントで「たかつきDAYS」1月号特集のこぼれ話を配信中!

アートが生活の一部にある魅力 暮らしを楽しくするアートの可能性

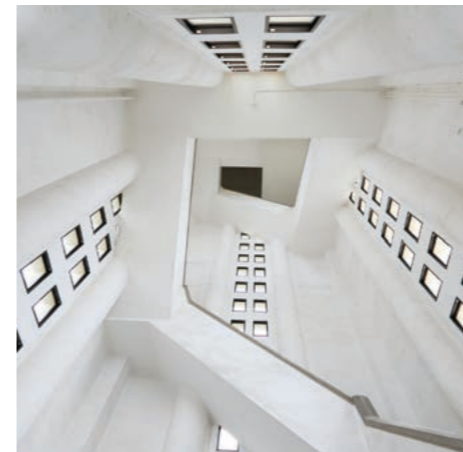


上／富田団地の入り口を飾るパーゴラ柱の壁面は、平成6年に団地の子どもたちが小さなタイルを張り合わせてつくった絵を埋め込んだもの 下／高槻・阿武山八番街にある彫刻家・川島慶樹さん制作のアート作品は大阪芸術大学の学生と住人によるARアニメーションの舞台にもなった

敷地内にアートが点在するUR都市機構の富田団地と高槻・阿武山団地。ここでは団地の魅力づくりとしてパブリックアートを取り入れてきた。また住人に、アートをより身近なものにしてもらうため、大阪芸術大学との協働によるアートプロジェクトを展開。自分らしく楽しむほど魅力を増すアートが団地への愛着も育んでいる。

まちかどのレトロな洋風建築は 見ごたえたっぷりのミュージアム

円柱が神殿のようにそそり立つ玄関、円や角などを取り混ぜた窓など印象的な意匠が随所に



京都大学 阿武山観測所

地震・防災サイエンスミュージアムとなっている昭和5年の建築物。堂々とした建物には荘厳さがあり、撮影ロケ地として何度も活用されている。JRの車窓からも目立つ白い塔の内部は、壁面に窓が並び繊細なデザインがフォトジェニック。

アラバスク装飾やアーチなどが特徴。階段講堂はどこに座っても先生の手元が見える設計



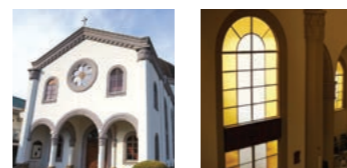
大阪医科薬科大学 歴史資料館

建築家ウィリアム・メレル・ヴォーリズの設計で昭和5年に建てられた校舎のうち、この別館だけが創立当時のまま残されている。異国情緒がたただよう外観は、現代医学のルーツのひとつである中世イスラムの様式を取り入れたもの。



カトリック高槻教会

キリシタン大名・高山右近を記念して、昭和37年、ゆかりの地に建てられた聖堂は、右近が生涯を終えたフィリピン・アンティポロの聖母大聖堂がモデル。緑青色のドーム屋根や花形のステンドグラスをはじめ込んだ丸窓などが印象的。

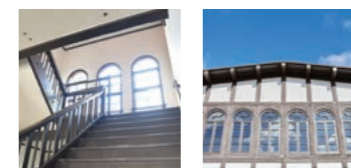


天気のいい日は、色ガラスを通した黄金色の光が、アーチをいかした教会内を美しく照らす



安満遺跡公園 歴史拠点

公園の中心部にある洋館は、昭和5年建築の本館を中心とした旧京都大学農場の建物群。赤い切妻屋根と白い壁の統一感ある4棟を、それぞれ外観はもとのまま、レストランや展示館などにリノベーションした。



クラシカルな空間で食事や展示、古代体験などが楽しめる。当時の建具を探す楽しみも

高槻には、建築ファンに愛される近代西洋建築も残っている。国の登録文化財もある建築物は、ある種、パブリックアートといえる存在。趣のあるたたずまいに一度目をとめると、まるでアートの見本市のように、外観だけでなく細かな部分にまでいくつも見どころを発見できる。建物ごとに違う個性を感じながらめぐってみよう。

※大阪医科薬科大学 歴史資料館の見学は要事前予約 (TEL.072・684・6738)、
京都大学 阿武山観測所は、定期的に行われる見学会でのみ見学が可能 (問合せ先 opentour@abuyama.com)

現代アートの
楽しみ方は自由。何これ？
から始めてみては

大阪芸術大学芸術計画学科 教授
谷悟さん



現代アートと暮らす高槻・阿武山団地

**アートを楽しむ日常が
団地やまちを輝かせる**

平成初期頃から建てられた高槻・阿武山団地には数多くの現代アートがある。そこにARアニメーションを融合させたり、アートカフェを開いて住民と対話を重ねたりすることで、新たなアートの楽しみ方を提案したのが、谷教授が率いる学生たちだ。

「パブリックアートには見てふれて自由に想像をふくらませることで、暮らしを豊かにする力があります」と谷教授。まちかどでもおもしろそうなモノを見つけたら、親子や友達同士で「これ、どう思う？」なんて話だけでも楽しそう。「高槻のあちこちでアートの魅力を掘り起こす人が増えてくれればうれしいですね」。



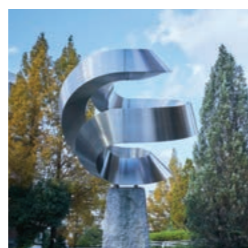
オブジェやベンチ、壁面アートなどがまちのシンボルとして存在。学生たちは七番街の広場や八番街のオブジェを中心に住民参加型のプロジェクトを展開。敷地内のアートにあらためて注目する機会をつくった



八番街にあるアート作品にARを用いて新しい楽しみ方を提案した「ARアニメーション〜「Mar Magician」から生まれた阿武山の精〜」。期間中、作品に設置された二次元コードをスマホで読み取ると、団地住民がワークショップで制作したキャラクター原画がアニメーションで現れる仕掛けだった



阿武山公民館前(上・中)や奈佐原西公園(下)をはじめ、団地界隈にもパブリックアートがたくさん



見る角度でさまざまに表情を変えるアートがあちこちに。団地住民とのワークショップでは、ARアニメーションのキャラクター開発をはじめ、牛乳パックでつくった和紙で木の葉を作り広場を飾ったり、ペーパーフラワーを作ったりするアートカフェなどの試みが行われた

※当時のARアニメーションの映像はYouTubeで視聴可能。「美団地KANSAI阿武山アートカレッジARアニメーション」で検索を
※富田団地と阿武山団地で行われた「大阪芸術大学×URアートプロジェクト」は、UR都市機構のウェブマガジン「うちまちだんち」の「美団地アーカイブ」で紹介されている

アートは暮らしの一部。
富田団地住民の
きずなの象徴です

富田団地 自治会長
澁谷哲男さん



生活にアートを組み込む富田団地



建物を彩るかわいい壁画など、緑豊かな敷地のなかに親しみを感じるパブリックアートが自然と溶けこんでいる。黄色の案内線が楽しいウォーキングコースに誘われて団地内を歩くと、ユーモラスなアートと出合えるのもおもしろい

**アートでつながる
住民同士の心ときずな**

「団地をふるさとにする」という考え方で積極的にアートを取り入れているUR賃貸住宅。とくに富田団地では、自治会主催の行事とアートを結びつけることで住民のきずなを深め、思い出に残る風景をつくりあげてきた。大阪芸術大学の学生によるワークショップも好評で、最近では近隣の人々にも開かれたウォーキングコースも設置された。

「行事にもアートにも人をつなぐ



力があります。つながりが強くなるほど、地域の防災力も向上します」と澁谷さん。アートが身近にある暮らしは、団地で育つ子どもたちの「ふるさと」の記憶として、鮮やかに刻まれていくはずだ。

自治会活動が
活発で毎月のように
楽しい行事が



団地内には遊び心あふれるサインなどのアートがたくさん。大阪芸術大学の学生とのワークショップでは、団地恒例の鯉のぼり行事にあわせて、古着を鱗に切り合わせた鯉のぼりなどをつくり。芋掘りでは芋版、またどんと焼きや団地にゆかりの深い白鷺をテーマにしたイベントで住民たちと一緒にアートを楽しんだ